

加藤 熙先生の【ご略歴】と【主な業績】

ここに掲載いたします加藤 熙先生の【ご略歴】と【主な業績】は、日本歯周病学会が平成17年に、加藤 熙先生を日本歯科医学会会長賞（研究部門）に推薦された時のものを、もとにしております。

【ご略歴】

| | | | |
|-------|-----|----|---|
| 昭和13年 | 2月 | 2日 | 茨城県水戸市生まれ |
| 昭和37年 | 3月 | | 東京医科歯科大学歯学部卒業 |
| 昭和37年 | 5月 | | 東京医科歯科大学歯学部助手 |
| 昭和43年 | 6月 | | 北海道大学歯学部講師 |
| 昭和43年 | 11月 | | 東京医科歯科大学歯学博士取得 |
| 昭和45年 | 10月 | | 北海道大学歯学部助教授 |
| 昭和53年 | 7月 | | 東日本学園大学（現北海道医療大学）歯学部 歯科保存学第一講座（歯周病学、歯内療法学）教授 |
| 昭和61年 | 9月 | | 北海道大学歯学部 歯科保存学第二講座（歯周病学、歯内療法学）教授 |
| 平成3年 | 3月 | | 文部省在外研究員（米国、北欧） |
| 平成11年 | 4月 | | 北海道大学歯学部附属病院長 |
| 平成12年 | 4月 | | 北海道大学大学院歯学研究科教授 |
| 平成13年 | 3月 | | 北海道大学定年退官 |
| 平成13年 | 4月 | | 北海道大学名誉教授 |
| 平成13年 | 8月 | | 東京お茶の水歯科クリニック院長 |
| 平成15年 | 7月 | | 総合歯科医療研究所所長 |
| 平成17年 | 7月 | | 総合歯科医療研究所顧問 |

【主な業績】

1 歯科医学研究に顕著な功績のあった研究課題（10件以内）

- 1) 正常および病的な歯周組織の共振振動数の測定—歯周組織の生物学的診断の新しい方法—。口腔病学会雑誌, 35(1) : 58-81, 1968.

新しい歯の動揺度の測定法として歯に振動力を加えて共振振動数を測定する方法を研究開発した。すなわち歯周組織の病態によって共振振動数が異なることを明らかにし、これを基に歯の動的動揺度測定法、歯周組織の新しい機能的診断の基礎的理論を確立した。

- 2) 局所刺激による歯周炎の発生とその治癒に関する研究-歯肉炎発症後の経時的变化について、日歯周誌, 15,227-237,1973.

歯周病の原因として全身因子が最も重要視されていた時代に、ネコを用い歯周炎の発生原因として局所因子が重要な役割をすることを明確にし、歯周炎の進行過程を追求して歯周病の予防と治療の基本を明確にした。

- 3) 歯の動揺度に関する研究(2)自動荷重・自動記録式の静的動揺度測定装置について。日歯周誌, 22 : 618-626. 1980.

歯の動揺度の測定装置の精度を上げ客観性を高めるため、自動的に一定速度で荷重し歯の変位を記録する自動的動揺度測定装置を開発した。

- 4) 歯周治療における Minor Tooth Movement(MTM)-根分岐部病変歯の分割後の歯体移動、日歯周誌, 30,272-278, 1988.

歯周治療に局所的矯正治療を導入する基本を示すと同時に、根分岐部病変歯の分割保存療法に局所的矯正治療(MTM)を応用する方法を確立した。

- 5) Bruxism の実態の解明と客観的診断法の研究—第1報 睡眠中の筋活動などを自宅記録するシステムの開発—。日歯周誌, 31(4) : 1146-1152, 1989.

睡眠中の Bruxism が歯周病や顎関節症の原因重要な役割をすることから、患者が自宅に持ち帰って睡眠中の筋活動などを記録し大学で分析診断するシステムを開発した。この装置はその後さらに研究改善し、小型化し産学協同研究により臨床応用可能となってきた。

- 6) Bone Morphogenetic Protein (BMP) による水平性骨欠損部の再生療法の研究。

日歯周誌, 36 : 810-822, 1994.

歯周組織再生療法として Bone Morphogenetic Protein (BMP) を用いる研究に取り組み、ネコを用いて GTR 法など従来の再生療法では不可能だった水平性骨欠損部も

BMPにより再生可能なことを示した。さらに根面とBMP配合コラーゲン膜との間にBMPを配合しない膜を置くサンドイッチ方式を考案し、根への骨性癒着なく歯周組織が再生することを明らかにした。

- 7) 歯周組織の炎症と咬合性外傷が合併した時のサル歯周組織の変化 — 炎症の程度と咬合性外傷の強さの影響について —. 日歯周誌, 38 : 385-399, 1996.

咬合性外傷と歯周炎との関係を解明する実験で、サルを用いて炎症と外傷の程度を変えて合併させ、咬合性外傷が歯周炎を急速に進行させる原因として重要な役割を果たし、歯間水平線維など歯肉線維の破壊とが重要な関係にあることを解明した。

- 8) The relationship between the severity of periodontitis and occlusal conditions monitored by the K6 Diagnostic System.

Journal of Oral Rehabilitation. 23:615-621,1996

歯周病患者の咬合機能状態について K6 Diagnostic System を用いて調査し、意識時には歯周病患者は正常者に比べて閉口運動速度が中心咬合位の直前で低下し、防御しているが睡眠時には防御が失われる可能性が高いことを明らかにした。

- 9) Effect of recombinant human platelet-derived growth factor-BB and bone morphogenetic protein-2 application to demineralized dentin on early periodontal ligament cell response .

J Periodont Res. 34:244-250,1999.

歯周組織再生療法にはポケット内露出根面の処置が重要であり、PDGF と BMP で根象牙質表面を処理し、その表面でヒト歯根膜細胞を培養すると根面に付着して石灰化物を作ることを明らかにした。

- 10) Effect of aging on bone formation induced by recombinant human bone morphogenetic protein-2 combined with fibrous collagen membranes at subperiosteal sites. J Periodont Res, 36 : 175-182, 2001.

歯周組織再生療法の研究には若年動物が用いられてきたが、歯周病患者は高齢者が多いことから、高齢ラットを用いて加齢が rhBMP-2 の骨再生に及ぼす影響を検討した結果、骨再生量は加齢とともに減少したが、rhBMP-2 の濃度を調節することにより若年者に近づくことを明らかにした。

2 大学、研究機関、日本歯科医師会、日本歯科医学会及び関連学会等における学術的活動

1) 大学関係

- 昭和 54～60 年 北海道医療大学臨床教務委員長
- 昭和 60～61 年 北海道医療大学教務部長
- 昭和 63～平成 2 年 北海道大学国際交流委員会学生交流専門委員長
- 平成 3～7 年 北海道大学国際交流委員、歯学部教務委員長
- 平成 4～6 年 北海道大学評議員
- 平成 7～8 年 北海道大学放送教育専門委員、大学放送公開テレビ講座主任講師
- 平成 10～11 年 北海道大学評議員
- 平成 10～11 年 北海道大学歯学部附属病院保存系歯科科長
- 平成 11～13 年 北海道大学歯学部附属病院長

2) 研究機関

- 平成 15 年～17 年 6 月 総合歯科医療研究所所長
- 平成 17 年 7 月～ 総合歯科医療研究所顧問

3) 日本歯科医師会

日本歯科医師会生涯研修セミナー講師

- 昭和 58 年度 生涯研修セミナー講師 進行した歯周病の治療計画の立て方
- 平成 5～6 年度 生涯研修セミナー講師—歯頸部周辺を考える、歯周組織の再生をめざした新しい治療法—生体内吸収性コラーゲン膜を用いた GTR 法を中心に—
- 平成 9～10 年度 生涯研修セミナー講師 8020 をめざして 歯周治療の効果的な進め方 歯周疾患の診査と基本治療
- 平成 4～7 年度 歯周治療のガイドライン検討委員会委員
「今日の歯周病治療」の執筆と編集
- 平成 7～8 年度 歯周病の診断と治療のガイドライン作成検討会委員
歯周病の診断と治療のガイドラインの作成（執筆と編集）
- 平成 8 年度 社会保険指導者研修会講師
歯周病の診断と治療—新しいガイドラインに基づいて

4) 日本歯科医学会

- 昭和 63 年度 日本歯科医学会テーマ研究 研究代表者 新しい歯肉縁下スケーリング、ルートプレーニング法の開発
- 平成 10 年度 総合的研究推進課題 研究代表者
歯周炎と咬合性外傷との合併による歯周組織破壊について

平成 11 年度 日本歯科医学会 18 回学術講演会 講師
歯科医学の最前線、歯周組織の再生－歯周治療への応用はどこまで可能か－

平成 11 年度 日本歯科医学会委託研究課題 研究代表者
歯の意図的再植法の成功率向上と適応症の拡大に関する研究

5) 学会関係

昭和 53～平成 13 年 日本歯科保存学会理事、日本歯周病学会理事、
昭和 58～60 年 日本歯科保存学会 副会長
昭和 61～平成 3 年 日本歯科保存学会あり方委員会委員、日本歯周病学会研究
委員会委員、医療委員会委員、認定医委員会委員
平成 3～9 年 日本歯科保存学会認定医委員
平成 4 年 第 35 回 日本歯周病学会秋季総会大会長（札幌）
平成 4～9 年 日本歯周病学会医療委員長
平成 9 年 第 18 回 日本臨床歯内療法学会学術大会長（札幌）
平成 9～13 年 日本歯科保存学会医療委員会委員
平成 9～12 年 日本歯周病学会認定医委員長
平成 10 年 日本歯周病学会臨床研修会 第 1 回北海道大会長
平成 12～13 年 日本歯周病学会 副理事長
平成 12～15 年 日本学術会議、齲蝕学・歯周病学研究連絡委員会委員

6) 卒後、生涯研修講師（主なもの）

昭和 57～58 年 愛知学院大学歯学部同窓会ポストグラデュエートコース（名古屋）
昭和 59 年～現在 東京医科歯科大学同窓会ポストグラデュエートコース（東京）
平成 2～16 年 加藤 熙ペリオ教室九州セミナー（福岡）
平成 17 年～現在 北海道歯周病セミナー（札幌）

3 審議会、委員会等の社会的活動

1) 文部科学省，厚生労働省関係

- 昭和 48～50 年 厚生省歯科医師国家試験委員
昭和 63～平成 8 年 厚生省歯科医師国家試験委員
平成 6 年 厚生省歯科医師国家試験副委員長
平成 7 年 厚生省歯科医師国家試験委員長
平成 8～10 年 文部省学術審議会専門委員
平成 8～14 年 厚生省医療関係者審議会専門委員，国家試験出題基準改定委員，事後評価委員
平成 10～14 年 厚生省歯科医師国家試験事後評価委員会委員長
平成 12～14 年 厚生省歯科医師国家試験出題基準改訂委員
平成 12 年 厚生省歯科医師国家試験制度改善委員
平成 13～15 年 厚生労働省医道審議会専門委員
平成 13～14 年 共用試験 CBT 歯学問題ブラッシュアップ委員会委員
平成 14 年～17 年 3 月 共用試験実施機構 CBT 委員会委員
平成 14 年～17 年 3 月 共用試験実施機構 CBT 運営委員会委員
平成 14 年～17 年 3 月 共用試験実施機構 CBT 歯学系問題作成分科会（幹事）委員
平成 14 年～17 年 3 月 共用試験実施機構 CBT 歯学系問題評価分科会 会長
平成 15 年～現在 厚生労働省歯科医師試験委員会（プール問題作成委員会）委員
平成 17 年～現在 日本学術振興会 21 世紀 COE プログラム委員会評価部会委員。

2) 北海道関係

- 平成 12～13 年 北海道医療協議会委員

4 国内外の功績、功労賞等（10 件以内）

- 昭和 63 年 流れの可視学会（論文）賞
昭和 59,平成 6 年 歯科衛生士教本 「歯周治療学」編著出版（歯科衛生士の教科書）
昭和 63 年 「歯周治療における咬合・矯正・補綴治療」編著出版
平成 1 年 「最新歯周病学」394 頁 単著出版（現在 6 版、学生、大学院生、研修医の教科書）
平成 12 年 「歯学生のための歯内療法」編著出版
平成 11 年 ハルピン医科大学名誉教授、中国医科大学客員教授
平成 12 年 日本歯科保存学会賞
平成 13 年 日本歯科保存学会名誉会員
平成 13 年 日本歯周病学会名誉会員
平成 17 年 日本歯周病学会賞

5 研究歴

- 1) 東京医科歯科大学歯学部（助手）（昭和 37 年 5 月～昭和 43 年 5 月）
 - (1) ネコを用いた歯周炎の発症と進行の病理組織学的研究
 - (2) 歯と歯周組織の共振振動数を測定する新しい歯の動揺度測定法の研究
- 2) 北海道大学歯学部（歯科保存学第二講座、講師、助教授）
（昭和 43 年 6 月～昭和 53 年 6 月）
 - (1) 咬合性外傷の電気生理学的研究と病理組織学的研究
 - (2) 歯の動揺度の研究（静的動揺度と動的動揺度の測定法）
- 3) 北海道医療大学歯学部（教授）（昭和 53 年 7 月～昭和 61 年 8 月）
 - (1) 夜間睡眠中のブラキシズムの電気生理学的研究
 - (2) 精神障害成人の歯周病とその対策、口腔清掃指導の効果
 - (3) 歯の動揺度、遊離歯肉移植術の研究
- 4) 北海道大学歯学部および北海道大学大学院歯学研究科（教授）
（昭和 61 年 9 月～平成 13 年 3 月）
 - (1) 歯周組織の炎症に対する治療と予防法の研究
 - (2) 咬合性外傷による歯周組織破壊およびブラキシズムの診査・診断と治療法の研究
 - (3) 歯周組織の再生療法の研究（根面処理、GTR 法、BMP の応用、歯根膜培養法）
 - (4) 意図的再植法の適応拡大と成功率向上の研究
 - (5) 垂直破折歯根の治療法の研究
- 5) 総合歯科医療研究所（所長）（平成 15 年 7 月～現在）
 - (1) 口腔内ガス測定による歯周病の早期診断法の研究
 - (2) エアースケーラー（エアースルフィ）の改良と臨床研究
 - (3) ブラキシズムの研究、診断装置の開発
 - (4) 柿タンニン（パンシル）による消臭・抗菌作用の研究
 - (5) 垂直破折歯根の接着保存治療法の研究